

カルメル

霊性センターニュース



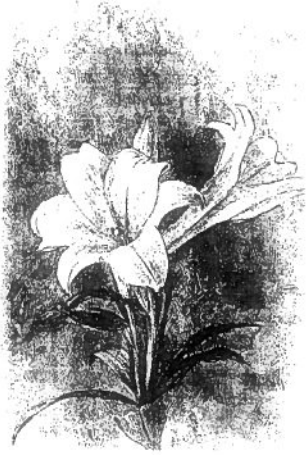
2015年11月

314号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	24
名古屋	28
北陸	29
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉





第二巻

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

2 救いといのちは十字架に

それなのになぜあなたは十字架を恐れるのか、それを通して神の国に上るのではないか？十字架にこそ、救いと、生命と、敵からの防御がある。十字架は天の喜びの賜物、知恵の威力、心の歓喜を与える。十字架には、すべての徳が含まれている、十字架には完全な聖徳がある。十字架によらなければ、霊魂の救いはなく、永遠の生命もない。だから、あなたの十字架をとって、イエスに従いなさい。そうすれば永遠の生命に至る。彼は十字架を担って(ヨハネ 19・7 参照) あなたに先立ち、その十字架の上で、あなたのために死んでくださった。あなたも十字架をとって、その上で死なせようと思われたからである。あなたが彼と共に死ぬなら、再び彼と共に生き、彼と共に苦しむなら、また共に永遠の光栄を受けるのである。

3 唯一の安全な道

見よ、すべては、十字架を担ってその上で死ぬことにある。そして、生命と真の平和とに導く聖なる十字架の道と、日々の苦行以外に道はない。望む道をどこにでも行き、欲するままに探しなさい。だが聖なる十字架の道よりも高く、それよりも安全な道は見いだせないであろう。何でも自分の望みどおりに導き、整えなさい。しかしあなたは、いやおうなしに、苦しみにあわずにはいられないであろう。こうしてあなたはいつも十字架に出会う。身体の苦しみであれ、心の試練であれ、つねに何かを忍ばなければならない。

教会典礼年の最後の月 - 11月 -

このページが綴られる頃には、朝夕の冷え込みとともに自然界は彩られ秋の饗宴が繰り広げられていることでしょう。さまざまな虫食いの葉は一つとして同じではなく、同じ樹からの落ち葉とは思えません。かさかさとした落ち葉を踏みながら思います…二人として同じ人間もその人生の歩み方もなく、「虫」に食われた痕もそれぞれ…そんな違ったわたしたちを一人ひとり神さまはいとおしんでおられると。



諸聖人の祝日にはじまる 11 月は、教会の伝統では死者のために祈る月とされています。そして典礼では終末に関する朗読が続き、教会の暦は年末となります。死者の月にすでに先立たれた方々に思いをはせ、祈るとき三位一体のエリザベットの言葉を思い出したいものです。わたしたちの日々の生活が神との親しさを生きるときとなりますように。

天国はわたしたちのうちにあります。なぜなら、至福直観の光のうちに栄光を受けている人々を満たしてくださる同じ方が、信仰と神秘のうちにこの地上でご自分を与えてくださるからです。わたしは地上に天国を見出しました。天国、それは神ご自身であり、神はわたしのうちにおられるのです。

～三位一体のエリザベト～*

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神はわたしのうちに わたしは神のうちに』 聖母の騎士、聖母文庫

人を赦す (24)

くのり
九里 彰

「自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々」に、イエスはたとえを話された (ルカ 18・9-14)。

二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。「神様、私は他の人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています」。ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。「神様、罪人の私を憐れんでください」。言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

このたとえの中のファリサイ派の人とは、私たちのことである。人の目には、ファリサイ派の人は字が読め、律法を熱心に守り、悪いことを一切しない立派な人々である。律法学者となり、サンヘドリン (最高法院) の議員となる者も多くいたようである。これに対し、徴税人はローマ帝国の権力を借り、サラ金業者のように、弱い人々を脅し、時には暴力を使って、無慈悲に税を取り立て、人々から売国奴として軽蔑され、嫌悪されていた人々である。字も読めず、当然律法など守らず、まさに「奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者」であったろう。現代で言えば、ヤクザ、前科者といったところではないだろうか。

したがって、ファリサイ派の人々が、自分は正しい人であり、徴税人のような罪人ではないと意識し、一般の庶民もそのように意識していたことは当然のことであった。だが、「罪人ではない」というこの意識こそ、何よりの罪だと言っていいかもしれない。罪びとではないという傲慢、うぬぼれが、神を神として受け入れることを難しくしていたからである。たとえのファリサイ派の人は、形としては神の前で祈っているが、祈る必要はない。神の憐れみ、救いを基本的に必要としていないからである。自分で自分を正しい者とし、神の罪の赦しを空しいものにしていく。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (96)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

さあ、眠りに行きましょう！

月下の美人*の白く、とともかぐわしい花のように、この夜の花（こぼれ話）は、アンダルシア、サンティステバンのカステッジャー地域にある、サンタ・アナの農場で生まれました。この農場は、エルビラ・ムニョスと彼の兄弟で聖職者のルイス・ムニョスから、バエサの修道士たちに寄贈されたものでした。

*訳注：スペイン語では”la dama de noche”。「夜の貴婦人」の意味。

この農場の世話をし、耕している修道院の修道者たちを、聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）は、バエサから訪問するのを楽しみしていました。ある時は休み、ある時は祈り、ある時は歌い、ある時は靈感を受けました。

サンタ・アナのヨハネ神父は、十字架のヨハネの最良の友人仲間の一人でした。彼は詳細にまた余韻をもってこう語っています。

「（聖人は、農場には）一週間ほど、何度か滞在しました。詩編を歌いながらあの野原へと、特に夜に出ていきました。何回かは、私と一緒に出かけ、空の美しさや無数の星の輝きについて語りました。星はほんとうに無数で、馬がライオンと異なるように、それぞれ異なっていました。また天の調和やその動きによって大規模に奏でられる音楽について語り、幸いなる人々のいる天国にたどり着くまで昇っていきました。そこからその美のすばらしさや、彼らに与えられた美しさがいかなるものかを語りました。このような話の後、長い時間、沈黙となりました。私は話を理解しながらも、夜の長い時間だったので、眠り込んでしまい、彼に言いました。

「神父様、もう眠りに行きましょう。もう夜も遅いので、夜気が体にさわります。」

（続く）

年間第3 2主日 (B)

みことばのひびき (マルコ12:38~44)

神は、躊躇しないで喜んで物を手放す人、快く物を与える人を愛されます。本日の福音の箇所は、私たちに本当に神に仕えるのは誰かという質問をしています。この質問は、学者や学問のある人たちの人前での見えを張った行いや、神殿の裏金箱に入れる金持ちの人たちの金額と貧しいやもめとの対比から生じているように思えます。人は自分たちの仲間をだますことはできますが、神をだますことはできません。そこでイエスは弟子たちにやもめの犠牲と気前のよい行為という分りやすい例を示します。

この福音の二番目の部分の場面は、非常に異なった場面です。ある点で、完全に異なったシナリオですが、繋がりががあります。二つを結びつける言葉は、“やもめ”です。本日の福音の第二の部分に描かれている貧しいやもめと第一の部分の学者とファリサイ人との間には著しい対比があります。イエスが指摘するポイントは、贈りものの価値は必ずしもその量によって評価されるものではないということです。重要なものは、自己を犠牲にしている贈り主の心です。やもめは乏しいものの中から与えていて、財産の中からではありません。

神は生きている信仰の中で忍耐する人に常に報われます。誰にも気づかれないということはありません。傲慢であれば気づかれ、謙虚であればこれもまた気づかれます。誰も名前を知らない貧しいやもめのように謙虚であれば、神はその人に気づき、高め、その犠牲に応じて報われます。

香港の学校を訪ねたマザーテレサのことを思い出します。マザーは修服の上に古いグレイ色のカーディガンを着て、古びた皮のサンダルを履いていました。数週間後、マザーはイギリスのエリザベス女王からテンブルトン賞を受け、インドに戻りました。写真に、マザーが同じカーディガンを着て同じサンダルを履いて女王と握手している姿がありました。女王は気にすることもなく、多分気づくことさえないように見えました。偉大な聖人の謙そんでした。

飢饉の間エリヤに食べ物を与えたやもめは、神のみ旨を知っていました。最後の2枚のコインを献金したやもめも神のみ旨を知っていました。イエスが私たちの罪のために聖なる十字架上でご自分を犠牲にされたとき、神のみ旨を知っていました。三人は皆、霊的な心を抱き、神の目によいこと、受け入れられること、完全なことを行ないました。

キリスト者は、謙そんで他者に仕えるキリストに従う人です。キリストは私たち人間の一人であるためにご自分を空にされた神であり人です。人間のためのキリストの謙虚と犠牲は比類ないものでした。福音の中で、最後のコインを献金した貧しいやもめは、明日の食べ物を得るために神に信頼しました。私たちの祈りの中で、躊躇なく神に自分を与え他者に仕える恵みを、至聖なる三位一体の神に求めましょう。

(Sr. Paulina)

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる」(マルコ 13, 28)。

このお言葉は、わたしには唐突に感じられるのです。その前後の文脈は、世界の終わり、いわゆる最後の審判への言及が述べられています。また、わたしたちが生きている季節感にも合わないと思うのです。この文脈でしたら、同じいちじくのととでも、「いちじくの葉が落ちたら、冬が近いことを知りなさい」との言い回し、この方が適切な気がします、イエスの時代のユダヤにもこの表現がなかったわけではないのですから。しかし、これは、どうも、あまりにも日本人的発想です、いえ、日本人という枠を超えて、自然界の四季のサイクル、未来永劫に繰り返されるかと思える自然の循環の中に生きることをよしとする自然的人間そのものの感性です。福音、イエスが、自然界、人間の感性の世界を超えた神のもとからもたらす人間の知恵や感性の産物ではない喜びの知らせには合致してはいないようなのです。ある方も、こう書いていました。「イエスは終末のしるしのたとえを、冬のイメージではなく、木が枯れることよりも木が葉を繁らせる、木の生命力が爆発する夏のイメージで表そうとしている。人間の経験、実感、知恵、感受性に捕らわれていないイエスにとって、終末は冬としてではなく、夏のイメージで把握される。つまり、終わりの日は悲しむべき生命の死に絶える日ではなく、それは喜びの日、生命の充溢の日なのである。終わりの日は、悲しむべき裁きの日ではなく、それは、神の救い、恵みの成就、神の救いの計画の完成の喜びの日なのである」と。生命が死に果てる冬ではなく、夏が近づく。生命が内に秘めて持っている活力を、老化して古く堅くなった枝にも行き渡させ、みずみずしい柔らかなものとし、その葉を繁らせ、花を咲かせ、豊饒な実を实らせる。この夏の豊かさは、イエスが、そのお言葉と生涯で、硬直化し、化石化した人間の心にもたらす救いの恵みの生命力を指し示しているのではありませんか。

実は、聖書の言葉では、「終わり」を表現する単語は、テロスと言います。この言葉は、終わり、終点だけではなく、目的、目標、あるいは、目的に達した状態、完成をも意味しています。ブドウの木がその秘めていた生命力を爆発させる夏が来るように、神の植えられたブドウの木、それは、神のみが始められた救いの計画の中に生きている人類とその文明を完成に導き続けている神の力が、わたしたちの生きている現代の内にも働いています。 ルカ 渡辺幹夫

王であるキリスト (B)

(ヨハネ 18 : 33—37)

典礼歴の最後にわたしたちは王であるキリストの祭日を祝い記念します。この祭日は王であり宇宙万物の主であるキリスト、またこの世の終わり、最後の審判のときに再び来られるキリストの真の権威権能を表しています。

今日の福音はヨハネだけが記述している、ローマの総督ピラトとイエスとの奇妙な対話、対決を伝えます。植民地体制のなかで最高の権力者と思っているローマ人と、何も持たずただ一筋に神の国の到来を民衆に宣教して来られたイエスとの対面です。ピラトはイエスに尋ねます、「お前がユダヤ人の王なのか。」一人の罪人として捕われ、何の罪もないまま酷い鞭打ちに耐えられたイエスは、ピラトの前に敢然と立ち、この質問が彼自らのものなのか、それとも世の噂によるものなのかとお尋ねになります。ピラトはイエスが彼と対等な者として話されたことに不満でした。イエスは人の権威や権能は地位や役職によるものではなく、人の内面に秘められた真の力によるものであることを示そうとされたのです。ご自分の国は霊的なものであることをピラトに説明されました。ご自分が王であると明白にお答えにはなりませんでしたが、ご自分の国について、ご自分がその国を支配する者であることをはっきり示し、この国はこの世に属していないことを明らかにしました。この国はピラトの理解を超えた正義と真理に根ざしたものでした。イエスは常に真の王として世に留まっておられます：ご自分のいのちを捧げてこの世を救うために来られた真の王として現存しておられます。この王は権力によらず真理によって統治なさる方、真理は天の御父の完全な啓示に他なりません。

イエスは人の心の主であり、王です。最高の責任者としてイエスが導く神の国は神の現存によって成り立っています。誰でもイエスの声に聞き従いイエスを信じる者は神の国の一員です。わたしたちが意識し心からイエスの臣下となり、イエスに聴き、イエスを愛し、イエスに仕え、イエスに従うなら、イエスは本当にわたしたちの王と言えます。わたしたちはイエスに導かれて、イエスのように、この世を真理、正義、愛に満ちたものとするために必死の努力を惜しまず働きます。するとこの世の全てから解放され、自分自身のいのちさえも惜しまず差し出せるほどになります。日々絶え間なく祈る“御国がきますように！”の祈願を主と共に実現していく努力です。逆説的に言えば、真実のイエスを知るための最も良い方法の一つは、助けを必要としている人々の中に入って行くことです。そこで主は私たちを待っておられます。

神の恵みによって、神から多くを与えられてきたわたしたちは、神の愛、優しさを反映する者となっています。王であるキリストによって知らされた天の御父、召命、生きた信仰、洗礼、新たな心と人間性、内在される聖霊、七つの秘跡、聖霊の実りなど、王であるキリストの永遠の御国に入るために必要なものです。わたしたちは神の愛—神の慈しみを決して忘れません。

(Sr. Paulina)

「いつも目を覚まして祈りなさい」(㊦ 21, 36)。

教会の典礼の暦は、今日から待降節、救い主の到来を待望する心構えを強調する季節に入りました。救い主、神の御子は貧しいナザレの乙女マリアの御子となって、約 2000 年前に、ベトレヘムの馬小屋で、すでに地上に到来したのではないですか。確かに、そうです。それなのに、なぜ、まだ、待つ心構えが必要なのでしょう。旧約の人たちは、約束された救い主の到来を待ち続けてきました。その救い主がどのような方であるかの核心は、分からないながらも、神の約束の成就を待ち続けたのです。待降節は、この旧約時代に生きた人々の心の構え、信仰と希望の態度、その持続する行動を記念します。しかし、それは、過去の人たちのことを思い出すためではないのです。実は、わたしたちも、まだ、待っている、十字架の死と復活で成就した救いの完成の中に迎え入れに来られる日を待っている、この待望と期待の状態にいるからです。しかも、その同じ主が、今日も、わたしたちと共に生き、お言葉と秘跡のベールの下にわたしたちを訪れてくださる、そのベールが上げられ、明らかに顔と顔を合わせる出会いになる、その日まで。実は、今日の福音はその出会いを語っていたのです。しかし、その語り方は、救いの喜びと平安とは正反対な状況を描写しているかに、見えます。「太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべをしらず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである」(㊦ 21, 25-26)。しかし、この個所は、実に、福音、喜びの知らせの成就なのです。この言葉はイザヤの預言を踏まえています。その預言とは、「主の日が来る・・・罪人を絶つために」(イザヤ 13, 9)、「わたしは、世界をその悪のゆえに、逆らう者をその罪のゆえに罰する。また、傲慢な者のおごりを砕き、横暴な者の高ぶりを挫く」(イザヤ 13, 11)と続いています。つまり、主の到来は、傲慢な横暴な者の暴虐、圧制から小さい人、弱い人を解放するためであり、この神の計画に反逆する者のみが、神の介入に抵抗する者のみが、神の救いから墮ちこぼれ、断罪、放擲の苦しみの中に入ることになるのです。その反面、神に希望し、約束を信じ守る義人には、実に、崩壊することのない磐石の岩、地獄の門も凌駕できない堅固な砦が、天から与えられています。「いつも目を覚まして祈りなさい」とは、この神の約束に希望を置き、開かれてくる展望で、今日の命の変遷の中に神の愛の招きを聞き取り、神がわたしたちに期待されている行動を読み取る心の態度を表しています。 ルカ渡辺幹夫

今すぐに君はこの街に放火せよその焰の何とうつくしからむ

前川佐美雄

うつそみのひとを愛さず春の夜の伽藍のほとけ盗みにゆかむ

永井陽子

毒入りのコーラを都市の夜に置きしそのしなやかな指を思えり

谷岡亜紀

何とも物騒な歌を掲げてしまいました。 或る文芸誌の「現代短歌ノート」と題する欄に、犯罪の歌として取り上げられていたのを見て、暗く妖しい美しさに魅入られ、うっとりとして想いを馳せました。

人間の想像力の粹、幻想への耽溺、暗黒への傾斜・・・それは規範をもった日常の陽のもとでは、おそらくは隠されている人間の、私の、もっともっと深みへと届こうとする意思であるのでしょうか。 わが身の限界を、打ち砕こうとする望みを孕んでいるかのようで、心の奥を波立たせます。 私たちの無意識の世界ともきっと関わるのでしょうか、計り知れない深さへの暗示を潜めていて心戦きます。

文学の一つのジャンルに、ゴシックロマンス、幻想怪奇の類があり、私ははなはだ自分勝手にですが、これらをとくと愛好するのです。

上記の歌も、実は放火される街とは既存の秩序、通俗性か、というような解釈もあるのですが、そんなことよりも敢えてこのままこの通りを読んで、恣意なイメージを翔ばせたいと思うのです。

決して現実そのものではないのですが、現実を凌ぐ鋭いリアリティーをもって迫り、暗黒の世界は美の世界となります。 表現されるものは当然人間の手による創作ですが、さかしまというのでしょうか、頹廢的、絶望的なもの、残酷、狂気、恐怖・・・ とにかく暗黒へと墜ちる世界の美しさです。

想像に遊ぶというよりもっと深く、やはり耽溺なのでしょう。 このようなものへ現を抜かすわが身をふと見留め、自分勝手の極みを見る思いになり、少ししょんぼりしますが、どう云ったらよいのでしょうか、ここは深々と何かが満ち、ひっそりと静まった私の居場所であるのです。

昔のことです。 気心の知れた数人の、本を読むグループの一員でした。

普段はそれなりの真面目な本を、それなりの真面目さをもって読み合い、話し合い論じ合っていましたが、或るとき余興のつもりで息抜きのつもりで、アガ

サ・クリステイーの当時の話題作を読み、皆で楽しいお喋りをしました。 ミステリー、サスペンス、ホラーなどの話に花が咲きました。 終盤一人のメンバーが発言したのです。「でも やっぱり殺人はいけないわ あってはならないことよ」。 40年ほど前のことですが、今なおその時の状況は鮮やかです。 一瞬、何をどう反応するのか、身動きもならず絶句しました。

正直のところ今でもとっさには何をどう反応してよいのかわかりません。この度の挿話として秀逸と思い、ここに加えたく思いました。

人間というものを描く文学は、規範の内だけではどうにもドラマにはなり得ないでしょう。 どこかで規範を越えてしまうとき、人間の真の姿があらわとなるのは必然です。 読む者もそこに喜怒哀楽を共にして、たとえ苦悩を覚えるとしても、また自分自身を見出すとしても、深く身の底までも感動するのです。

福音書を読むときも、イスカリオテのユダの存在は私には格別です。ひときわスポットが当たります。 こう言ってもよいのなら福音の中の幸いとかえ言いたい思いがあります。 私たちはありったけの想像力を駆使して、まるで自分のことのようにユダを想うのです。 真剣にその救済を考えるのです。 文学も宗教もユダは興味津々の対象であり、関心は尽きません。 さまざまに取り上げられ、とり扱われ、議論されます。

私も若い日に拙い知恵を絞り、ユダのことをよく大声で論じ合いました。

しかし今、年を取ったのでしょうか、以前のように想像力も湧き立たず、エネルギーも大声も欠乏したようです。 もう、黙って、私のイエズスの助けを乞い、私のイエズスとともに、私のイエズスがしてくださったように、血の汗と涙をもって、ユダをこの胸にしっかりと抱いてやりたいです。 もはやユダのおかあさんか、おばあさんか、はたまたひいおばあさんです。

こうありたいとの切なる願いが、他ならぬ自らに由って叶わぬものとなるのを全身に知るときこそ、私はほんとうに私であり、ほんとうに人間です。

この事実をこれまでに、どれほど度重なって身に刻んできたでしょうか。

主イエズスへの親愛、神さまへの哀願は、福音の内にユダが存在することで一層切実となります。

魂が「神の方」を志すときこそ、「暗闇の方」はどうしようもなく現存し、密に関わってくるのだと思っています。

神の光を受ける私の闇は、どれほどの深さなのでしょうか。

いのちの言葉 11月

すべての人を一つにしてください。

(ヨハネ17・21)

今月のみ言葉は、イエスが地上で最後に捧げられた、御父への嘆願の祈りです。

神は人類をご自分の家族として造られ、自らの神聖ないのちを分かち合ってくださいました。人間の親も、自分の子が互いに助け合い、一致しているのを見ると嬉しいでしょう。逆に、子供たちが嫉妬や利害関係に陥って仲たがいし、口も利かなくなれば、親はどれほど心を痛めることでしょうか。同様に神も、人間が神との間、互いの中で愛の交わりを生きるよう、永遠から働きかけておられます。

人間の起源について語る「創世記」には、人が罪を犯し、人類家族の分裂して行く様子が描かれています。男（アダム）は女（エバ）に木の実を食べた非を負わせ、彼らの息子のカインは弟を殺害し、バベルの塔を築いた人々は言葉がわからなくなって全地に散らされました。こうした人間の姿を見ると、神のご計画は敗北に帰したかのようです。

しかし神は、ご自分の民が再び一つの家族になるよう、忍耐強く導かれます。人類の歴史はノアと共に再出発し、アブラハムの選出へと続き、やがて神はご自分の御子を地上に遣わされ、一つの偉大な使命をおゆだねになりました。散らされたご自分の子供たちを一つの家族として集めること、民の間に生じた分裂と憎しみの壁を打ち砕き、唯一の新たな民を生み出す（エフェソ2・14-16参照）という使命です。

すべての人を一つにしてください。

どの家庭にも親の影響がありますが、神の造られた家族もそうでしょう。神は愛です。被造物を愛されるからだけでなく、ご自身が「愛、交わりそのもの」でおられるからです。

人は神の似姿として造られました。神はご自身との関わりを築く能力を人にお授けになり、一人ひとりが自らを贈り物として互いに差し出すようにされました。

今月のみ言葉の全文「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください」からは、私たちの一致の手本が「御父とイエスとの一致」であることがわかります。人間には無理と思えても、私たちは御父とイエスとの一致の内に導き入れられ、その一致に与るので、私たちにも可能になります。

すべて人を一つにしてください。

イエスはご自身と御父が一つであるように、私たち皆を一つにし、唯一の家族にされます。そのために、イエスは私たちの一人となられ、人間の分裂と罪を背負われました。

イエスは「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」(ヨハネ12・32)と言われ、私たちに一致に導く道を示し、この道を自ら通られました。死と復活の神秘の中で、イエスはすべてをご自身の内に集め(エフェソ1・10参照)、罪により崩れた一致を築き直し、御父のもとに人類家族を集めて、人が新たに兄弟同士になるようにされました。

こうしてイエスはご自分の使命を果たされましたが、私たちの果たす部分が残されています。一致を願うイエスの祈りに、私たちも答えることです。

すべての人を一つにしてください。

イエスの祈りの実現に向け、私たちには何ができるでしょうか。

何よりも、この祈りを自分のものとする 것입니다。私たちの口と心をイエスに使っていただき、毎日イエスご自身が信頼をもって御父にこの祈りを捧げ続けてくださるようにしましょう。一致は、天からいただく賜物ですから、たゆまず信仰をもって願いましょう。

この一致は、神の抱かれた夢だとするなら、私たちの夢でもありたいものです。何かを決めたり、選んだり、したりする前に、「これは一致を築くのに役立つだろうか、一致のためにより良いことだろうか」と時折、自問してみましょう。

そしてイエスがされたように、不一致がより強く見られる所に出かけ、それを自ら担うことです。家庭内の不和や知人との関係のもつれ、地域でのいさかい、職場や教会での対立もあるでしょう。不一致や無理解から逃げ出したり、無関心に陥ったりせず、相手に心をかけて話を聞き、苦しみを共に担ってみましょう。

特に、一致というイエスの理想を共有する人と、心をついにして生きることです。誤解や考え方の違いにとらわれず、「不一致の状態でも完全であるより、一致しながら不完全な方がよい」と思い、相手との違いを喜んで受け入れてみましょう。一致は画一性とはまったく異なるものです。互いの違いは、一致への歩みを豊かにするものと受け止めましょう。

このような生き方をする時、私たちは十字架に付けられることもあるでしょう。でもこれこそ、人類家族の一致を築き直すためイエスが選ばれた道でした。私たちもイエスと共にこの道を歩みたいと思います。

ファビオ・チャルディ神父

*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

糸巻き棒からペンへ(3)

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OCD



聖テレジアの現代性

今までは過去のことだけをお話してきました。これからはテレジアがその時代をはるかに越える女性であったこと、また教会の歴史に消すことのできない足跡を残していったことを知る良い機会となるでしょう。でも、21世紀の人々になお何か伝えるべきことがあるのでしょうか。「然り」と私は答え、そのことを以下において示したいと思います。

テレジアは、トレント公会議で神学を再構築し、その後のカトリック教会の道を指し示した神学者たちと同時代人でした。ドミンゴ・デ・ソト、アルフォンソ・サルメロン、ホアン・アルサ、フランシスコ・デ・ヴィトリア、アルフォンソ・デ・カストロ、ディエゴ・デ・コバルビアス、メルコル・カノ等々。これらの人々の著作は、何世紀にもわたり、高く評価され続けました。しかし、今日、だれが彼らの著作を読むでしょう。ところが、聖テレジアの著作は、無数の言語に翻訳され、今なお出版され続けています。2008年に、テレジアに関する一巻の文献目録が出版されました。そこには、聖テレジアに関する12647件の作品（伝記、歴史的、文学的、神学的研究、視聴覚的分野等々）が収録されています。これらのおびただしい出版は、この女性が全世界において引き起こしている、人々の大きな関心を示しています。

こんなに長い時を経ても、人々になお興味を抱かせるほど、彼女を現代的な人としているのは、何なのでしょう。その答えは簡単です。彼女の体験です。彼女は、多少とも興味深いながらも、具体的な生活からかけ離れた問題を理論的に扱うのではなく、本質的な事柄に肉迫していきます。自分の個人的な歴史における神の顕現を私たちと分かち合い、自分の生活において神と出会い、神と関わるよう教えています。

イエスのテレジアは、(『創立史』や無数の手紙の中で取り上げられている)旅行や家の購入や許可を得るための交渉など、疲れを知らぬ活動と、(『靈魂の城(内的な城)』に反映されている)燃えるような神秘主義へと到る深い内的生活を、自分の内に統合しています。彼女の中では、内省と人々と交わる欲求が、偉大な事業を実現するための確固たる意志と気さくな交わりが、いくつかの本質的な価値を断固として守ることと考え直し、変化する状況に容易に順応していく能力とが一つとなっています。 九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年10月8日

イエスの聖テレジア生誕500周年記念 インドの閉幕式

私たちの聖なる母テレジア生誕500周年記念の閉幕式は、インド各管区で行われましたが、10月3日にインドのカルメルファミリーは、全国規模の閉幕式を開催しました。南インドのタミルナドゥ州で最も大きく最も有名な“健やかな恵みの聖母”聖堂のあるベランカンニが、この一大行事の開催地でした。この全国大会は、跣足カルメル修道会、履足カルメル修道会、その他多くのカルメルの女子修道会、テレジア的修道会等のカルメルファミリーによって行われ、全インドから集まった参加者は約1,500名にのぼりました。

閉幕式の荘厳ミサは、駐インドの教皇大使、サルバトレ・ペンナッキオ大司教の主司式、並びに数名の司教と管区長と司祭団による共同司式で執り行われました。場所は、新しい暁の星バジリカで、在世会員を含む1,800名のカルメル会士が参列しました。ミサの説教で教皇大使は、インドにおける跣足カルメル修道会の存在に感謝し、これからも祈りの生活の召命に忠実であるよう励まされました。全国大会は、文化交流プログラムで閉幕式を閉じました。

このタミルナドゥ州ベランカンニで開催されたインド全国レベルでの私たちの聖なる母テレジア生誕500周年記念の閉幕式に、インド跣足カルメル修道会管区協議会は、総長と総長顧問を招待しました。両名は、閉幕式全国大会の1週間前にインドに到着し、カルナタカ・ゴア管区の兄弟的訪問を行いました。大会前日の10月2日に、総長はインド跣足カルメル修道会の委託統治地区会議を招集され、すべての管区長は、顧問と地区代理者と管区長代理を同伴してこれに出席しました。この会議の主な目的は、今年のアピラ総会で決定された会憲の再読を推進すること、及びインドで実施される養成コースについてでした。これらのコースについては総会で決定されましたが、カルメルのカリスマの独自性を再発見するために有効な現行のプログラムを考慮に入れて綿密に計画されることとなります。

管区協議会は、次回の会議で総長顧問と次期6年間のプログラムについて話し合い大筋を決めることとなります。インド跣足カルメル修道会管区協議会は、総長顧問会全員をインドへの兄弟的訪問に招待し、次の拡大総長顧問会をインドで開催するよう提案しました。

「カルメル」
今日の霊性・秋号
四旬節講話特集号



2015 秋 No.358

カルメル 2015 特集号

「現代における預言者 聖テレジア」
—聖女のカルスマを次世代に伝える—

神が慈しまれた道 (7)	私には名前が二つあります (46)	西行と芭蕉の霊性 —命の声調に聴く— (9)	歴代教皇の寸描 (2)	聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて —教会のために聖霊にとらえられて— (12)	風に吹かれて (5)	マリア・エウジェニス 編・訳 伊徒信子	修道生活の改革 (3)	イェスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (3)	エディット・シュタインとアピラの聖テレサがほざけたもの (2)	魂の城	須沢かおり	二十世紀のために生まれた聖テレジア	テレジアに学ぶ宣教の精神	キリスト者一致に対するテレジア的預言	アピラの聖テレサの霊的母性	修道生活の改革者 聖テレジア	片山はるひ	二十世紀のために生まれた聖テレジア	中川博道	テレジアに学ぶ宣教の精神	今泉 健	53	
奥村 一郎	森 みさ	田畑 邦治	高橋 重幸	原 造	九里 彰	松田 浩一	須沢 かおり	松田 浩一	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり	須沢 かおり

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5＝2,300円】＋送料【700円】計 3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 日帰り黙想会 13時30分 (※10時) ～16時

[聖人たちを支えた神のことば] 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2015年

11/5 (木)、11/20 (金)、12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

※企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

2. 奉獻生活者のための黙想会

12月27日 (日) 18時～2016年1月5日 (火) 朝 福田正範神父

3. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

テーマ「キリスト者の奉獻」

11月13日 (金) 16時～15日 (日) 16時

4. 召命黙想会(男女)

~~9月25日 (金) 16時～27日 (日) 16時~~ (中止になりました)

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

1 1月 6日(金) 20時～ 8日(日) 16時 「いのりの道」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

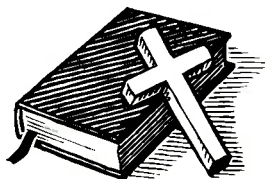
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：11月 5日(木) 午後1時30分～午後4時

11月20日(金) ”

12月 3日(木) ”

12月18日(金) ”

2016年1月15日(金) ”

1月28日(木) ”



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2015年11月6日(金)20時～8日(日)15時

わたしが来たのは

羊が 命を受けるため

しかも豊かに受けるためである

ヨハネ10・10



わたしたちを探す神のまなざしに出会い、

わたしたちを探し続けられる神を迎え入れるために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

- 指 導： 伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 持参品： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』伊従訳編 サンパウロ
『テレーズの約束』サンパウロ (黙想の家で購入できます、)
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想の家)
158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel 03-5706-7355 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
- 申し込み方法： FAX 03-3704・1764 または、ハガキにて



カルメル青年黙想会 キリスト者の奉獻



- 日時 : 11月13日(金) 16時 ~ 15日(日) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 11月6日(金) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話: 03(5706)7355
FAX: 03(3704)1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

2015 年

降誕祭のミサに参加するための黙想

- *日時：12月24日（木）～25（金）午前10時まで
24日（木）は、後3時より入室出来ます。
講話は、ありません。
夜半ミサより日中ミサにかけて主イエス・キリストのご降誕を
黙想し、静修の時を過ごしましょう

費用：¥4000

- *お問合せ、お申し込みは 上野毛聖テレジア修道院（黙想）
TEL. : 03-5706-7355・FAX.03-3704-1789
E-mail mokusou@carmel-monastery.jp



2015年～2016年 黙 想 会 案 内

(宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年 11月28日(土)～29日(日) 日常生活の中でイエスと共に生きる 中川博道 師
2016年 1月 9日(土)～10日(日) 私が洗礼を受けたこと 中川博道 師

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)

2015年 11月14日(土) 中川博道 師 12月12日(土) 渡辺幹夫 師
2016年 1月 9日(土) 中川博道 師 2月13日(土) 渡辺幹夫 師
3月12日(土) 渡辺幹夫 師

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年
11月18日(水) 観想と活動 松田浩一 師
12月16日(水) 人となられた神にともなわれて 中川博道 師
2016年
1月20日(水) 主の慈しみは、新たになる 渡辺幹夫 師
2月24日(水) 生きていることの見直し 中川博道 師
3月16日(水) キリストの過ぎ越 松田浩一 師

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2016年 3月5日(土)～6日(日) 中川博道 師

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年 12月13日(土)～12月14日(日) 松田浩一 師

【カルメル青年の集い】 (午後5時～午後4時)

2015年 11月22日(日)～11月23日(月) 松田浩一 師

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

2015年 12月27日(日)～1月 5日(火) 松田浩一 師

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン 午後4時以降可、チェックアウト 午前11:30
12月24日(木)～ 12月25日(金) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで
お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話はなるべく、午前9時～午後5時の
間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

~~6月19日(金)～20日(土)~~

6月26日(金)～27日(土)変更

7月24日(金)～25日(土)

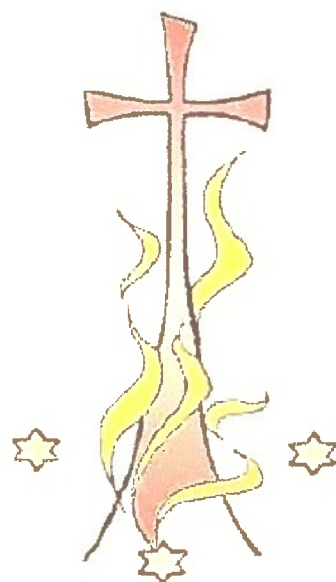
9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル青年黙想会

テーマ：*神よ、あなたはどこにおられますか!!*

イエスの聖テレサ教会博士の神の慈しみ体験

テレサの映画鑑賞もあるよ!!



スピリチュアル・ディレクター：松田 浩一神父

スピリチュアル・コンパニオン：CM シスターズ

対 象：青年男女30歳まで

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

費 用：6,000円（一般）、4,000円（学生）

日 時：2014年11月22日（日）受付開始17時

～23日（月）16時

問合せ・連絡先：カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel 0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

Email: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

十字架の聖ヨハネの祭日ミサと講話のお誘い

十字架の聖ヨハネの神への愛の奉仕

2015年12月14日（月曜日）午前9：30～11：45

場所：カルメル修道会宇治修道院の聖堂

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：献金

交通：JR 奈良線六地藏駅・市営地下鉄東西線六地藏駅

徒歩 15 分・タクシー 5 分

京阪六地藏駅 徒歩 20 分・タクシー 7 分

お問い合わせ

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



《 名古屋一日静修 》

カルメルの霊性を生きる

—アビラの聖テレジア—



1. 日 時：11月23日（月）
「念祷の祈りとは？」
12月23日（水）
「自分を知ること」
午前10時～午後4時
- 場 所：カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 指導司祭：九里 彰 神父
3. 参加費：1000円
4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5. プログラム
10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り
6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申し込み下さい。
FAX/0568 - 62 - 5167
mail/seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26
「名古屋一日静修」係り

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第二土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう。

カルメル霊性センター



〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 244 - 7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

- K4 09/19 (土) -09/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/27 (火) -11/02 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

2016年予定

- N1 02/26 (金) -03/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
N2 05/07 (土) -05/13 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
K1 06/13 (月) -06/19 (日) 東京・小金井・聖霊会
K2 10/01 (土) -10/07 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/20 (木) -10/26 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 12/05 (月) -12/11 (日) 東京・小金井・聖霊会

真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2015年～2016年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

冬学期: 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19
2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。
1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。
13時30分から。岐部ホール4階、404。

●クリスマス会

12月12日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。
事前申し込み要。

●クリスマスのミサ

12月23日(水)14時～16時。上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

●クリスマスの黙想

12月25日(金)18時55分～20時40分。聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)

10/30 信仰の決断— 支えられて生きる

11/06 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧

11/13 自己実現と神の意志— 生き方の規範

11/20 人間の弱さ— 罪とは何か

11/27 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

12/04 愛の心— キリスト教の本質

12/11 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う

12/12 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
パーティ、岐部ホール4階404.要申し込み)

12/18 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む

12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内ク
ルトゥルハイム2階、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチ
オ教会マリア中聖堂、予定)

01/08 霊の動き— 福音による生き方

01/15 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰

01/22 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想
の仕方

01/29 結婚と独身— 愛の道

02/05 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている

02/12 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄
与して働く

02/19 人間の苦悩— 悪とは何のためか

02/26 死— その受け入れと克服

03/04 人生の完成— 神の内に生きる

03/11 聖母マリア— 信じる者の原型

03/18 ●御受難と御復活の黙想(予定)

03/25 ○休み(聖金曜日)

03/27 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルト
ゥルハイム2階、80人限定)

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[根本的態度]

11/17 身体と生命— 性と倫理

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

[日常生活]

12/01 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見

12/12 ■クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)

12/15 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り

12/23 ■クリスマスのミサ(14時、上智大学内ク
ルトゥルハイム2F、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチ
オ教会マリア中聖堂、予定)

12/29 ○休み

01/05 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への
信頼

01/19 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘

02/02 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの
深まり

[信仰の実現]

02/16 祈りの本質と靈的読書— キリストとの心の
交流

03/01 創造的靈性— 活動における観想

03/15 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う

03/27 ■復活祭のミサ(14時、上智大学内クルト
ゥルハイム2F、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



東京

11月21日（土）「マリアの奉献」
12月19日（土）「インマヌエル」
午後2時 ～ 午後5時30分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い
講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

京都

11月14日(土)、12月5日 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫
4章 死への旅の同伴者、5章 わたしたちとともにおられる神

11月10日(火)、12月8日 13時半～15時半 河原町カトリック会館3階
* 『いのりの道をゆく』聖母の騎士聖母文庫 担当：伊従信子
* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半

11月21（土）13時半～15時 京都NDV
主日の福音の分かち合い 担当 中山真里

11月28日（土）14時～16時 河原町カトリック会館7F
『神のみ前で』読み合わせ・分かち合い、祈り 担当 中山真里

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ  
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4  
TEL・FAX(075-462-3525)  
email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>  
 ★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

| コース         | 日時<指導者>                         | 指導者  | 開催場所                      | 申込み                               |
|-------------|---------------------------------|------|---------------------------|-----------------------------------|
| サダナ I       | 11/20(金)17:30-<br>11/23(月)15:00 | Fr植栗 | 浜松(旧)聖ベルナルド<br>修道院(浜松市)   | 若山美知子※<br>Tel&Fax<br>03-5802-3844 |
| フォロー<br>アップ | 12/6(日)<br>9:30-17:00           | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| 入門C         | 2016/1/17(日)<br>9:30-17:00      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| サダナ I       | 2/11(木)17:30-<br>2/14(日)16:00   | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                |
| フォロー<br>アップ | 2/28(日)<br>9:30-17:00           | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| サダナ II      | 3/17(木)17:30-<br>3/21(月)16:00   | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)・・・体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II・・・Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または入門 B を終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師 (パカ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご  
相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)



# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

|   | 日時               | テーマ             | 講師          |
|---|------------------|-----------------|-------------|
| 1 | 5月16日(土)～17日(日)  | 網を捨てて従う         | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 9月12日(土)～13日(日)  | 人里離れたところに行く     | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月21日(土)～22日(日) | あなたがたがパンを与えなさい  | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月13日(土)～14日(日)  | イエスよ、私を忘れないください | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

あなたがたがパンを与えなさい

2015年度 第3回 召命黙想会

日時： 11月21日 (土) 15:00 ~

22日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2015年11月15日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

## 沈黙の内に神を求めて —観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

11月12日（木）『靈魂の城』第七の住居・第二章  
12月10日（木）『靈魂の城』第七の住居・第三章

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



### <<特別黙想会>>

日時：12月5日（土）5時受付～6日（日）午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「イエスの聖テレジアとともに祈る」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 新刊紹介



中川博道 神父の  
待望の新刊が出来ました！！

## 存在の根を探して

6月23日発売

### ●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

#### 主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

10 月は相次ぐノーベル賞で湧いたが、医学生理学賞を受賞した大村智教授の記者会見での言葉は、素晴らしいものであった。「私の母は小学校の先生で忙しく、祖母が面倒を見てくれた。祖母が『人のために役に立ちなさい』と繰り返し言っていた。人の役に立つことをやりたいと思っていた。分かれ道に立った時はそういうことを基準にしていた」。

自分のことしか考えず、自分のためにしか動かない人が多い現代において、絶えず人の役に立つことはないかと考えていた大村氏は、日本人が忘れかけていた「人の道」を思い出させてくれたのではないだろうか。

学生には、「人のまねをしたら、それを越えることができない」と諭し、「自分は人の二倍も三倍も失敗している。失敗を繰り返してもやりたいことをやりなさい」と失敗を恐れないう励ましていた。

また今後やりたいことはと問われ、「人間の教育です」とも答えられていた。成果や結果や見せかけばかり追う風潮に対し、人間そのものの育成こそ重要という主張であろう。だが、これは、すべての分野において言える。

「すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ」(マタ 7・17)。

実際、その人の生き方、考え方が仕事や作品を決定する。人間がいい加減なら、その仕事や作品もいい加減にならざるを得ないだろう。(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「12月号」製本日 11月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171